OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	マスコミの窓から
Author(s)	新井, 洋子
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 11, p. 11-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84672
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

マスコミの窓から

毎日放送アナウンサー
兼ラジオ制作
デイレクター
新　井　洋　子

今　年の秋冷は早く，全国的に風邪の襲来も早いと報じられている。やっと冷房風邪から解放され，しばしの小康を得ていた咽喉の粘膜も，又これから春まで充血しっぱなし，いつ流感ウィールスに襲われるか知れない。いやぁねえ，と私達は嘆息をもらす。機械の保全が主な目的になっているスタジオの，エァーコンデイションのお陰で，私達の咽喉はいつも常態ではない。夏は毛編みのカーディガンを着ていても，爪が紫色になる程冷え込み，冬は出来るだけ薄着をしても蒸焼になる程，咽喉はカラカラに干上ってしまう。こんな条件の職場と外界を毎日往復していれば，大底自律神経もオカしくなろうと云うものだ。女性の身には尚更のこと，私の職場の共稼ぎママには，難産，早産，未熟児出生が多い様な気がする。又子供を望んでも，不妊と云う例もある。私はいつも結婚した後輩に云う。子供を生む積りなら，母体を害わない中に早く辞めて家庭にお入りなさいと。「ママの育児日記」を担当して来た経験から，私は，やはり健康優良児は，生命力の溢れている年代の，健康な両親から生れるものだと思っているからだ。

でも，通勤バスや電車の中で見られる，団地の若いパパさん方の，恥も外聞もない浅ましいばかりのエゴイスト振りや，ヨチヨチ歩きの坊やを，危い道路で手放して，オシャベリに夢中のママさん方を見るにつけ，親になる資格と云う事について，つくづく考えさせられてしまう。人間としての基本的な躾は，幼い時に家庭に於てなされなければならないものなのに　。――まこと，真に良き父たり，良き母たる事の，何と難き哉！